

矢立ハイツに一泊してみても

リポーター 西田 昌枝 (八坂町)

も色もほとんど無いサラリとした感じ。お風呂から見える秋田杉が見事なので、明るいうちに入りたい温泉です。うれしいことに二百六十円で入浴だけの利用もできます。

お料理は母にも私にも食べやす

七年度最初の市民リポーターだよ。再オープンしたばかりの矢立ハイツに一泊したうえで取材した西田リポーター、大館市総合福祉センターでの機能訓練の実態を取材した斎藤リポーター、お二人のリポートをご紹介します。

秋田市から遊びに来てくれた母と二人で、改装オープンした矢立ハイツに一泊してみました。

温泉好きの二人にとって一番うれしかったのは、何ととっても新しくできた温泉浴場です。以前の風呂場はカラオケルームになっていて、新しい風呂場は景色の良い方角の四階にサウナ付きでぜひたくに完成。泉質は、美容にいいと評判の塩分を含んでいて、におい

い味付けで、煮物、焼き物、刺身等の九品。大館らしい料理としては、シウウガの香りがする比内鶏のお吸い物がありました。大館市に初めて泊まる母を連れて来た私としては、「きりたんぼ料理」が一品出てくれるとありがたいなあという気がしました。

ハイツの内装は白を基調としていて明るく清潔なイメージで、客室も壁やカーテンが新しくなったので、改装前に泊まったことのあるお客さんたちは「ずいぶん変わって良くなった」と驚いていました。客室棟は建物の一番奥にあるので、国道7号を走る車の音は



山信田支配人(右)から説明を受ける西田リポーター(左)

ほとんど聞こえずとも静かで、ゆっくりおしゃべりをして楽しむことができました。

朝食は和食ですがモーニングコーヒーのサービスもあります。公共の宿、それもオープンしたばかりということで、行き届いたサービスはまだ確立されていませんが、一泊二食付き六千八百円という格安料金(サービス料、入湯税、消費税を除く)でこんなにくつくりできるなんて、満足二重丸でありました。

障害者の機能訓練について

リポーター 斎藤 種雄 (泉町)

だれでも年をとってくると身体の機能が衰えてきます。また、病気がやがて年齢に関係なく突然にやってくる機能障害で悩んでいる人がたくさんいるとも聞いています。日頃から、もし自分がそうなったらどうしようという気持ちがあり、市総合福祉センターの機能訓練の実態をリポーターとして訪ねてみました。

このセンターには一日平均約四十人がリハビリにきているとのこと。訪ねてみて、第一印象は「明るいな」と感じました。二人の保健婦のもと、いろんな器具を利用して運動に汗を流して、その表情には暗い感じはなく、お互いに連帯感を持ちながら励んでいます。

ただ一つ難点を挙げますと、必要最低限といえるサービスが、私たちの年代にとってはうるさくなくて良かったのですが、戸惑うお年寄りの姿も見受けられたりして、マニュアルを超えた気配り(今はスタートしたてでそんな余裕は無いのだと思いますけれど)が今後の課題になりそうです。

ともあれ、市内から車で三十分一杯のコーヒーを楽しむために、温泉で一息入れに、気軽に立ち寄りしたい施設です。

した。建物、担当のかた、利用しているかたみんなが明るい、そんな感じでした。

機能訓練の内容は、日常生活の自立を助けるための訓練、理学療法士による個人指導、保健婦による助言や血圧測定、医師、保健婦、栄養士等による講習会の開催など。リハビリ学級として栄養指導、診察とリハビリ、音楽療法、言語療法、バス旅行など、同じ障害者同志として楽しく、知らず知らずのうちに身体も心も晴れやかに、そして機能も回復していく、そんな楽しい? 教室も行われているそうです。

障害のあるかたは家の中にとじこもりがちで、身体を動かすことが少ないのではないのでしょうか。それでは治る障害もかえって悪くなるばかりです。少しでも外へ出て良い空気を吸い、伸び伸びと手足を動かす。そして仲間がいるセンターへ出かけて話し合う。そうすれば気も楽になり、完治までいなくても必ずや軽くなると思うのです。リハビリに通うかたは登録制で、主治医の指示によることですが、費用などは無料で、月曜日から金曜日、午前九時から午後四時まで利用できます。いずれ、障害に悩んでいるかたはセンターの機能訓練室がどんなところかのぞいてみて、良いと思ったら利用してもらいたいと思いました。市では老人福祉エリアの建設構想もあり、市長さんも大館の福祉や健康維持などには特に気を使っていたに違いないようです。この事業は誠に大きなもので、できると聞いただけでも障害に負けていけないのではないのでしょうか。



機能訓練室内で熱心に取材する斎藤リポーター(左)